

自然災害発生時における業務継続計画
(抜粋)

【施設名：岡田整形外科医院】

【施設名：岡田整形外科居宅介護支援事業所】

【施設名：通所リハビリテーション一喜一喜】

【施設名：グループホーム一喜一喜・楽楽】

【施設名：デイサービス サニーサンデー】

【施設名：訪問介護 ふれあい】

R 3 . 9 . 1 策定
R 5 . 3 . 2 4 改定
R 6 . 3 . 2 5 改定
R 7 . 3 . 2 1 改定

(1) 基本方針

人命の安全（利用者・及び職員等）

- 社会的な供給責任

- ・災害等緊急事態の発生時においても社会的に必要とされる支援を目指す。

法人の経営維持

- ・入所施設の利用者を優先し経営を維持する。

- ・在宅利用者の生活を守り経営を維持する。

地域等との協調

- ・地域の一員として、地域住民や周辺自治体との協調に努める。

- ・ボランティアの派遣・受け入れ等、また救助品等の配分、供給に努める。

二次災害の防止

- ・火災等二次災害の発生を防止し、地域への被害拡大を防ぐ。

* 法人本部の基本方針と同じであれば、それらを記載しても構わない。

・年2回の防災訓練(火災・地震・水害等)の実施

- ・毎年年度初めに緊急連絡網の再整備を実施

- ・各部門の定期点検の実施

- ・災害情報の共有

- ・台風時の事前対策の実施(各部門)

- ・新型コロナウイルス等の感染症対策(医療・介護安全対策委員会)

- ・定期的なデータバックアップ(各部門)

① ハザードマップなどの確認

施設・事業所が所在するハザードマップ等を掲載する（多い場合は別紙として巻末に添付する）

①第一避難場所 岡田整形外科医院

- ・岡田整形外科医院利用者は2階へ避難

- ・グループホーム一喜一喜、楽楽、デイサービスサニーサンデイ利用者は岡田整形外科医院2階へ避難

- ② 第二避難場所 生目中学校 ※水害時はJA 生目

- ・使用可能であれば車両 7 台を使用する

- ・徒歩時は職員駐車場を經由し避難

浸水想定対象河川：大谷川洪水浸水最大想定値：3～5 m



③ 被災想定

大きな被害が予想される災害について、自治体が公表する被災想定を整理して記載する。

【自治体公表の被災想定】

<周辺の被害状況>

項 目	想定される被害内容	
電 気	●発災から3日間程度停電する。	
上下水道	●発災から2週間程度停止する。	
ガ ス	●発災から1ヶ月程度停止する。	
情報通信 (固定電話、インターネット)	【固定電話】 ●通信規制のため、1週間程度はつながりにくくなる。	【インターネット】 ●停電やケーブル断線のため、1週間程度使用できない。
情報通信 (携帯電話：通話・メール機能)	【通話機能】 ●地震発生から1週間程度はつながりにくくなる。	【メール機能】 ●遅配するものの当日から使用できる。
道路	●浸水被害等により車両通行止めとなる。 ●高速道路や一部の幹線道路は、緊急輸送車両以外の通行が禁止され、被害の少ない地域から徐々に一般車両の通行が再開する。 ●その他の道路では、車両の混雑の影響で渋滞が発生する。	
鉄道	●3日程度は鉄道の運行が完全に停止し、被害状況の確認後被害の少ない地域から順次運行を再開する。	
物流	●緊急輸送物資以外の輸送は困難な状況が続く。	
燃料	●ガソリンスタンドの営業停止や輸送能力の低下により、燃料が不足する。	

<法人の被害状況>

項 目	想定される被害内容
利用者	●設備・什器類の移動・転倒や、耐震性の低い建物の大破・倒壊等によって、一部の利用者が負傷する。
職 員	●設備・什器類の移動・転倒や、耐震性の低い建物の大破・倒壊等によって、一部の職員が負傷する。 ●交通機関の停止や職員および職員家族の負傷により、一部の職員の出勤ができなくなる。
建 物 (壁、柱、床、梁、屋根、階段等)	●耐震性の低い建物に、大破・倒壊等の大きな被害が発生する。 ●建物自体が被害を受けなくても、天井の一部が落下したり、蛍光灯・窓ガラスの一部が落下・飛散する被害が発生する。 ●地盤が液状化した場合、建物に傾斜等の被害が発生する。
設備・什器類(製造設備、PC、コピー機、ラック等)	●固定していない設備・什器類が移動・転倒する。 ●公用車等、使用不可(破損等)
情報・データ	●未固定の基幹システムやサーバが転倒・損傷する。 ●バックアップを取っていないデータが失われる。
資 金	●事業が停止した場合、収益が減少する。 ●建物・設備等の被災により、修繕・再調達費用等が発生する。

④ 優先業務の選定

① 優先する事業

複数の事業を運営する施設・事業所では、どの事業（入所、通所、訪問等）を優先するか（どの事業を縮小・休止するか）を法人本部とも連携して決めておく。

＜優先する事業＞

（１）岡田整形外科医院

（２）グループホーム

＜当座停止する事業＞

（１）通所リハビリテーション ※利用者の安否確認は実施

（２）デイサービス ※利用者の安否確認は実施

（３）居宅介護支援事業所 ※利用者の安否確認は実施

（２）電気が止まった場合の対策

被災時に稼働させるべき設備と自家発電機もしくは代替策を記載する。

稼働させるべき設備	自家発電機もしくは代替策
・岡田整形外科医院	自家発電機 ※電灯
レセコン	自家発電および発電機(MRI 室に保管)
ワクチン冷蔵庫	同上
診察室電源、携帯電話	同上
・グループホーム	
冷蔵庫、在宅酸素	発電機(MRI 室に保管)
電気・携帯電話	ランタン・懐中電灯・モバイルバッテリーなど

（３）ガスが止まった場合の対策

被災時に稼働させるべき設備と代替策を記載する。

稼働させるべき設備	代替策
・岡田整形外科医院	自家発電(医院) 家庭用自家発電機
厨房	カセットコンロ(ボンベ)・ガスボンベ

（４）水道が止まった場合の対策

① 飲料水

2ℓペットボトル 6 本入り×25 ケース (3 日分×50 人分) ※手術準備室

自動販売機

※グループホーム…2ℓペットボトル 6 本入り×2 ケース(一喜一喜押し入れ)

② 生活用水

ポリタンク 50× 個 (3 日分×50 人分)

※グループホーム…ポリタンク 50× 個

(5) 通信が麻痺した場合の対策

被災時に施設内で実際に使用できる方法(携帯メール)などについて、使用可能台数、バッテリー容量や使用方法等を記載する。

→ 携帯電話／携帯メール／PHS／PCメール／SNS等

・携帯電話

通所リハビリ …スマホ 1 台

サニーサンデイ …スマホ 1 台

居宅介護支援事業所…スマホ 1 台

リハビリ室 …ズームフォン 1 台 ※Wi-Fi 必要

総務 …ズームフォン 1 台 ※Wi-Fi 必要

・乾電池式バッテリー… なし

(6) システムが停止した場合の対策

岡田整形外科医院

・予備電源の作動(自家発電機・家庭用自家発電機)

・バックアップデータの呼び起こし

(7) 衛生面(トイレ等)の対策

被災時は、汚水・下水が流せなくなる可能性があるため、衛生面に配慮し、トイレ・汚物対策を記載する。

① トイレ対策

【利用者】

・ポータブルトイレ

病棟 …3 台

グループホーム一喜一喜…2 台

グループホーム楽楽 …1 台

・使い捨て簡易用トイレ(100 回分)を使用 ※手術準備室

・オムツ、パットなど 18 名 3 日分 (グループホーム利用者)

【職員】

・使い捨て簡易用トイレ(100 回分)を使用 ※手術準備室

② 汚物対策

排泄物や使用済みのオムツなどの汚物の処理方法を記載する。

・専用のごみ袋に入れ、感染バケツに一時保管。そのご、感染・医療廃棄物保管庫にて管理する。

(8) 必要品の備蓄

被災時に必要な備品は別紙リストに記載する。3 月・6 月の防災訓練時に感染災害対策委員会及び

栄養部で備蓄チェックを行う。

【資金手当】

- ・災害後の復旧に係る資金…火災保険を使用
- ・当面の現金は医療法人岡田整形外科及び有限会社おかだより確保する

＊地震保険の保険契約については地域によって制限がある

3. 緊急時の対応

(1) BCP発動基準

地震の場合、水害の場合等に分けてBCPを発動する基準を記載する。

【地震による発動基準】

- ・宮崎市周辺において、震度6以上の地震が発生し、被災状況や社会的混乱などを総合的に勘案し、理事長が必要と判断した場合に避難を開始。
- ・周囲の状況も鑑み安全に施設使用可と理事長が判断したばあいにBCPを発動する。

【水害による発動基準】

- ・台風、大雨等により、宮崎市に洪水警戒が発表され大谷川の氾濫注意水位を超過(レベル4)したときに避難を開始。
- ・浸水がなく今後も発生のおそれがない場合(避難解除の情報確認)にBCP発動する。
- ・地震によりが津波が発生し、大谷川の氾濫のおそれがあるとき。

また、管理者が不在の場合の代替者も決めておく。

管理者	代替者①	代替者②
理事長 福 嶋 秀 一 郎	副院長 福 嶋 麻 里	介護部門長 矢野剛樹

(2) 行動基準

発災時の個人の行動基準記載する。

災害発生時の行動指針

- ① 自身及び利用者(在宅時は家族)の安全確保
- ② 二次災害への対策(火災、建物倒壊など)
- ③ グループホーム利用者の生命維持
- ④ 法人内施設間の連携、外部機関との連携
- ⑤ 情報発信

平常時 …… 日常点検、災害訓練／見直し、情報収集等

災害直後 …… 命を守る行動(安全確保、避難)

↓

二次災害対応(避難場所の確保等)

体制確保 …… 参集可能な職員の確認 ※各部門主任へ個々が連絡

体制確保後 …… グループホーム利用者の生命維持(最低限のサービス維持)

生活困難者の支援(最低限のサービス提供)

事業の順次再開
体制回復後・・・通常営業・業務
完全復旧後・・・反省・評価／見直し 備品補充等

(3) 対応体制

対応体制や各班の役割を図示する。代替者を含めたメンバーを検討し、記載する。

【地震防災活動隊】

隊長＝理事長 地震災害応急対策の実施全般について一切の指揮を行う。

【情報班】

行政と連絡をとり、正確な情報の入手に努めるとともに適切な指示を仰ぎ、隊長に報告するとともに、利用者家族へ利用者の状況を連絡する。活動記録をとる。

班長：総務部長 メンバー：総務部

【消火班】

地震発生直後直ちに火元の点検、ガス漏れの有無の確認などを行い、発火の防止に万全を期すとともに、発火の際には消火に努める。

班長：各部門主任 メンバー：各部門職員

【応急物資班】

食料、飲料水などの確保に努めるとともに、炊きだしや飲料水の配布を行う。

班長：栄養管理室責任者 メンバー：厨房職員

【安全指導班】

利用者の安全確認、施設設備の損傷を確認し報告する。隊長の指示がある場合は利用者の避難誘導を行う。家族への引継ぎを行う。

班長：介護部門長 メンバー：リハビリテーション室職員

【救護班】 負傷者の救出、応急手当および病院などへの搬送を行う。

班長：看護部長 メンバー：看護職員

【地域班】 地域住民や近隣の福祉施設と共同した救護活動、ボランティア受け入れ体制の整備・対応を行う。

班長：グループホーム一喜一喜・楽楽主任 メンバー：グループホーム職員

(4) 対応拠点

緊急時対応体制の拠点となる候補場所を記載する（安全かつ機能性の高い場所に設置する）。

第1候補場所	第2候補場所	第3候補場所
診察室1	院長室(医院2階)	研修室

(5) 安否確認

① 利用者の安否確認

【安否確認ルール】

- ・電話確認（連絡がつかない近距離利用者は訪問）で利用者の安否確認を行う
- ・緊急連絡先への連絡

- ・災害時伝言ダイヤル 171 による安否確認

【医療機関への搬送方法】

- ・岡田整形外科医院で対応。徒歩、車いす、担架を使用。

② 職員の安否確認

各部門責任者が自部門職員の安否確認し、管理者(理事長)へ報告する。

【施設内】

- ・目視確認
- ・内線電話での連絡(部門間)

【自宅等】

- ・グループライン(各部門)
- ・グループライン(主任・リーダー)
- ・携帯電話での連絡

(6) 施設内外での避難場所・避難方法

地震などで一時的に避難する施設内・施設外の場所を記載する。また、津波や水害などにより浸水の危険性がある場合に備えて、垂直避難の方策について検討しておく。

【施設内】

	第 1 避難場所	第 2 避難場所
避難場所	医院…2 階 研修室 GH…リビング サニー…ホール待機	医院…2 階 研修室 GH…医院 2 階 研修室 サニー…医院 2 階 研修室
避難方法	徒歩・車いす、担架 可能時はエレベーター使用	徒歩・車いす、担架 可能時はエレベーター使用

【施設外】※医院への浸水による機能停止時・建物崩壊時は第 2 避難場所を検討

	第 1 避難場所	第 2 避難場所
避難場所	医院 2 階 研修室	JA 中央生目支店
避難方法	徒歩・車いす 可能時はエレベーター使用 ※必ず靴を履くこと ・利用者がいる場合は、安全に留意しながら利用者の誘導を行う。 ・車や落下物に注意する。 ・避難にあたっては、事業所内に残された方がいないか、大声で確認しながら避難する。	徒歩・車いす 可能時は送迎車輛使用 ※必ず靴を履くこと ・利用者がいる場合は、安全に留意しながら利用者の誘導を行う。 ・車や落下物に注意する。 ・避難にあたっては、事業所内に残された方がいないか、大声で

	・車いすの方は、極力複数で補佐する。 ・応急手当セットを持ち出す	確認しながら非難する。 ・車いすの方は、極力複数で補佐する。 ・応急手当セットを持ち出す（事務長） ・車両での避難は、足の弱い方を優先する。
--	---	--

（７） 重要業務の継続

● 医院の機能回復作業

被災者の医療的ケアの実施ができるよう必要な医療機器の使用ができるよう調整をする

- ・電源の確保(自家発電・発電機)
- ・病棟、GH 入所者の医療ケアの実施
- ・地域の被災者への医療ケア

● 病棟患者の対応

医療的ケアを優先し、他部門から必要な人材を収集する

- ・電源の確保(自家発電・発電機)
- ・人員は総務、リハビリ室、介護部門より確保する

● GH 入居者の対応

医療的ケアを優先し、他部門から必要な人材を収集する

- ・電源の確保(自家発電・発電機)
- ・人員は総務、リハビリ室、介護部門より確保する

（８） 職員の管理

① 休憩・宿泊場所

震災発生後、職員が長期間帰宅できない状況も考えられるため、候補場所を検討し、指定しておく。

浸水なし・建物崩壊なし	
休憩場所	宿泊場所
サニーサンデイ・通所リハ	サニーサンデイ・通所リハ
浸水あり・建物崩壊なし	
休憩場所	宿泊場所
職員休憩室	職員休憩室・オペ室

② 勤務シフト

震災発生後、職員が長期間帰宅できず、長時間勤務となる可能性がある。参集した職員の人数により、なるべく職員の体調および負担の軽減に配慮して勤務体制を組むよう災害時の勤務シフト原則を検討しておく。

【災害時の勤務シフト原則】

- ・病棟・・・日勤 2 名、夜勤 1 名
- ・外来・・・2 名
- ・GH 一喜一喜、楽楽・・・日勤 5 名、夜勤 2 名

※災害状況に応じて通所事業所は再開し、優先度の高い方のみの利用とする

- ・通所サービス(サニーサンデイ、通所リハビリテーション)・・・4名、送迎要員3名

(1) 福祉避難所の運営

① 福祉避難所の指定及び受け入れ方法

通所リハビリテーション一喜一喜及びデイサービスサニーサンデイを福祉避難所とする。
受け入れについては、避難所が被災しておらず、支援する職員またはボランティア人員の確保ができる場合に運営する。

○通所リハビリテーション一喜一喜

- ・受け入れ人数 30名
- ・医療的ケアが必要な方の受入れは要相談
- ・要介護状態の方については原則家族付き添い

○デイサービスサニーサンデイ

- ・受け入れ人数 30名
- ・医療的ケアが必要な方は受け入れ不可
- ・要介護状態の方については原則家族付き添い